経友会ニュース

第14号

ご質問・お問合せ・メールのご登録は
大阪市立大学 経友会
（大阪市立大学 経済学部同窓会）
keiyukai07@sakai.zaq.ne.jp

2008（平成20）年3月20日発行

平成19（2007）年度 経友会講座（国際経済論特講I）ダイジェスト 大人気！ 大ホールに受講生750名

経友会が提供する国際経済論特講は、昨年後期10月4日から本年1月17日まで13講座を開講しました。3年目を迎えても人気は落ちず、昨年度を上回る750名の受講生（学生702名、社会人48名）が田中記念館大ホールで熱心に受講しました。産業経済界の第一線で活躍されている先輩諸氏を中心に、本学理事の土井 純三氏も講師陣に加わり、多彩な講師陣となりました。講師各氏はいずれの方も海外勤務を経験されたか、海外での業界事情に精通された方ばかりで、若い学生たちに熱っぽく語りかけられた光景は印象的でした。以下、各講義の概略を紹介します。

第1回 平成19（2007）年10月4日
「世界の鉄鋼業の現在と将来」

講師：古川　弘成氏
［昭和44年経済学部卒］

阪和興業株式会社
専務取締役

鉄鋼の世界需給に大きな影響を与えている中国製造業・鉄鋼業の目覚しい成長の様子をグラフ資料で提示され、中国が世界の鉄鋼需要を牽引しつつあること、その中でわが国鉄鋼業も高水準の生産を保っていることを説明された。そしてここ数年来、世界を驚愕させている鉄鋼業界の再編・寡占化の動きとわが国製鉄業界の対応について話が進むと学生たちは真剣に聞き入った。最後に“スキルはツール、真のキャリアを身に付けろ”と諭された。

第2回 平成19（2007）年10月11日
「日本の軽自動車とアジアの軽自動車ベーススモールカー」

講師：大石　弘之氏
［昭和50年文学部卒］

ダイハツ工業株式会社
総務・広報ブロック理事

軽自動車は戦後日本の経済復興が進む中で生まれたユニークな規格で、当初は身近な小口貨物車として普及したこと、そして国民所得の増により軽乗用車として広まったこと、その後も女性の社会進出により軽乗用車市場が拡大し、機能性とファッション性向上で人気を得て新しいステージに入っていることを示され、軽自動車の発展は国民生活に密着した形で推移していることを説明された。また21世紀はアジアなどの新興国の発展と世界的な環境重視の視点からさらに軽自市場が伸張すると思われるので、今後の動向に注目されたいと締めくくられた。

第3回 平成19（2007）年10月18日
「日本のエレクトロニクス企業におけるグローバル化の進展」

講師：土井　純三氏
［昭和44年経済学部卒］

大阪市立大学理事
元・松下電器

企業の成長・発展から海外展開に至る過程とその形態を一般的な図式で示され、海外における松下電器の販売会社・製造会社の展開を時系的に説明された。またイギリス松下電器を例に、会社立地の環境条件や経営推進上の課題等を販売・市場の面や、材料調達、技術・規格の面から詳しく述べられた。さらに70年代から展開してきた海外の販売・生産拠点のグローバルな体制を時代の変化に即応して3次に亘って再編していることを説明された。そして最後に企業のグローバル戦略においてこれから求められる人材としての要件を示された。

第4回 平成19（2007）年10月25日
「東芝のグローバル事業戦略」

講師:小林　俊介氏
［昭和44年法学部卒］

株式会社 東芝
執行役常務 関西支社長

1875年東芝の前身、田中製造所の創業からわが国の近代化をリードし続けて今日の世界企業として発展してきた歴史と、社是として継承されてきた基本理念「人々や社会の役に立つものを創り出す」のもとに、常に時代の最先端をいく技術の研究、商品の開発に邁進している東芝の世界企業としての精神を説明され、また世界各地に置かれた販売・生産・研究拠点とその総括体制の変遷、新興市場としてのBRICsやアジア諸国の躍進についても分かりやすく分析された。

第5回 平成19（2007）年11月8日
「やってみなはれ～サントリー挑戦の歴史」

講師:岡村　美孝氏
［昭和48年経済学部卒］

サントリー株式会社
取締役広域営業本部長

国内酒類総市場はこの5年間で市場規模は約5,000億円縮小し、06年はGDPの0.8%、約4兆円規模（生産者価格ベース）となっていること、また酒類販売を取り巻く環境の変化、即ち、人口の高齢化・少子化など人口動態や購買層、消費者意識、法制度等の変化について分析され、団塊・シニア世代の需要の掘り起こしが重要な課題であるとされた。海外進出状況ではいまや世界最大のビール消費国となっている中国へいち早く進出に成功したサントリーの取り組みについても詳細に話された。

第6回 平成19（2007）年11月15日
「国際貿易と不死鳥商社の役割」

講師:髙田　誠一氏
［昭和43年経済学部卒］
トライネット・ロジスティクス株式会社
代表取締役社長
元・三井物産

長年勤められた三井物産を事例に、商社の事業の特色、多彩な機能・役割や、時代の変化に伴う商社機能の変遷など分かりやすく説明された。中でも商社の持つグローバルネットワークが有する情報・調査機能がわが国の国際ビジネスの進展を支えていると強調された。そのほか、商社の失敗事例や成功事例をつぶさに紹介され、21世紀社会のニューフロンティアビジネスの予測とあわせて、今後の商社の果たすべき役割や経営の課題などについて詳細に語られた。

第7回 平成19（2007）年11月22日
「包装産業－日本vs世界」

講師:石髙　康治氏
［昭和43年経済学部卒］
東罐マテリアル・テクノロジー株式会社
代表取締役社長
元・東洋製罐

はじめに包装・容器の概念と歴史、食品・飲料水はじめ電気製品の包装にいたるまで身の回りすべてに使われているその多様な形態・材質について説明され、今日、容器に求められる機能についても飲料水を例に示され、学生たちの認識を新たにさせた。またこの業界は国内市場の縮小化が見えてきている中で、海外市場に活路を見出さざるを得ないことや、国内最大手の東洋製罐の中国・東南アジア等での海外進出状況、さらに世界の大手企業の再編の状況についても詳しく紹介された。

第8回 平成19（2007）年11月29日
「国際物流とパラダイム」

講師:篠原　正人氏
［昭和48年経済学部卒］

東海大学 海洋学部教授
元・商船三井

世界貿易の物流の99.7%が船舶によっていること、また貨物輸送の燃料効率は船舶がずば抜けて優れていることを示された。世界の海運の動きとして目覚しい東アジア経済圏の伸長、特に中国の突出したコンテナ取扱高、世界主要港のランキング上位6港が東アジア圏で占めている状況を数字で示された。また資源多消費経済からの脱却が求められているなか、日本が世界物流に貢献できることは、環境少負荷型の輸送手段の開発、トラック輸送から船舶・鉄道輸送への復帰、無駄な輸送・サービスの廃止などであると締めくくられた。

第9回 平成19（2007）年12月6日
「BRICsの中のBRAS（Z）ILの実力とその魅力」

講師:室　元明氏
［昭和41年経済学部卒］
株式会社 ボンドリーム
代表取締役社長
元・クラボウ

21世紀に世界経済の中で大きな勢力となると目されているBRICs4国に共通する特徴として、広大な国土・大きな人口規模、豊かな鉱産物資源、外資の導入、市場開放を挙げられた。その中でもブラジルは近い将来にOPEC並みの産油国になると目され、農畜産物輸出力も世界的に突出していて、その上まだ広大な未利用耕地を残していることなど大きな発展潜在力を秘めていることを詳述された。また日本企業は2000年代になって、経済の立ち直りを機に積極的に投資し出したことや、この国の持つさまざまな魅力を語られた。

第10回 平成19（2007）年12月13日
「海外での企業経営ー銀行員の眼から」

講師:田仲　勇一郎氏
［昭和46年経済学部卒］
尾家産業株式会社
常務取締役 管理本部長
元・第一勧業銀行

銀行マン・経営者として南米や東南アジアをはじめ世界各地に赴任され、異なる風土・文化の地で仕事を通じて現地の人々と渡り合い交流された体験を話された。文化の違いを相互に認め合うことによって、日本の企業文化が現地で新しい企業文化を創造していったと振り返られるのだが、相互の理解が生まれるまでには自身の苦闘や葛藤があり、ある一面では武士道精神を思い起こさせ、また一面では仏教や東洋の思想に基づく透徹した目で人間を見る人である。ロマンに富んだ、またこれから社会人として巣立つ若い人たちにひとつの指針を与えるお話であった。

第11回 平成19（2007）年12月20日
「ロシアの鉄鋼業」

講師:荻野　和己氏
［平成10年大学院
　　経済学研究科修了］
大阪大学名誉教授（工学部）

はじめにウクライナ・ウラルの地に近代的鉄鋼業が誕生したのは19世紀末で、世界的には遅れた存在であったのが1970年代に粗鋼生産量で年産1億トンを超し世界一の生産国にまで発展した経過と、ロシアにおける鉄鋼業の立地について説明された。そして70年代末より、ソ連崩壊の混乱によって未だ完全な回復が見られないこと、また世界の鉄鋼業が高炉の大型化や技術革新により生産量が拡大しているのに比して立ち遅れていたが、最近では高炉の改修も進み、少し明るい展望が見られることを詳しく解説された。

第12回 平成20（2008）年1月10日
「日本の繊維産業の変遷」

講師:佐藤　一良氏
［昭和42年経済学部卒］
ダイヤモンド電機株式会社
総務部次長
元・蝶理

まず繊維の種類・特性、糸の種類・用途、織物の生産工程、世界の綿花生産国など基本的な知識を教えた後、繊維産業の変遷について説明された。戦前まで国内基幹産業として隆盛を極め、60年代に鉄鋼製品にその座を譲るまで日本輸出商品のトップであったこと、その後、開発途上国の進出により、80年代には繊維製品の輸入が輸出を上回り、以降輸入が増え続けていること、そして現在、中国が圧倒的なシェアを占めてきたこと、このため、日本の繊維メーカーは生き残りをかけて非繊維産業への参入・繊維の高機能化・アパレル企業との共同事業化などを進めていることを説明された。

第13回 平成20（2008）年1月17日
「日本のカメラ産業と海外市場開発」

講師:竹内　淳一郎氏
［平成9年大学院
　　経済学研究科修了］
日本大学カメラ産業研究会
元・ミノルタ

現在のカメラ産業の特色やその動向を示し、概括的に理解させたあと、カメラの創成期からカメラメーカーの出現、産業の成り立ちへの変遷、技術革新による90年代のデジカメの急速な伸長や新機種競争について説明された。またカメラ産業は50年代以降一貫して国内出荷より海外出荷が上回っており、その最大の輸出先は欧州と北米であること、また総輸出台数では60年代に西独を抜いてトップの座にあることを示された。また近年の日独の販売店の北米進出状況と厳しい競争や、メーカー企業は事務機器・医療機器の分野にも進出していることを詳細に説明された。

総合司会の中村健吾教授、右手 佐藤隆広准教授

経済学部3回生vs経友会

～企業の選び方のコ

今年で2回目となる経友会（経済学部同窓会）と経済学部共催による異
I）で講師を務めていただいた福田利夫氏（積水ハウス 部長）、藤井清治
現役企業幹部3人が、経済学部3回生18名に自身の就職逸話や、入社後
び方や面接時のポイント、仕事の具体的な内容や社会人としての心構え
と本音トーク」を特集する。この座談会は、平成19（2007）年12月14日（

福田氏

福田氏は昭和52年の卒業、もともとそれまでの花形産業だった商社が第1志望だったが、安宅産業の破たんなど業界全体が採用に消極的な時期にぶつかった。そんな中で他業種にも会社訪問していくうち、積水ハウスの若い社風と成長性、20代でも仕事に応じた十分な給与がもらえるということを知り、入社を決めたという。「入った時の資本金が80億位でしたが、今では1800億以上、売上も1兆6000億近くになりましたから、今は良かったと思ってますよ。」

面接の時に気をつけておくことは?

学生　どういう受け答えといいますか、どうしたらいい印象をもってもらえるんでしょうか?

浅田　自己紹介で自分は頑固なんですって言ってた人が何人かいるけど、ほんまの頑固はあかん!柔軟性があって人の話も聞いて自分に芯をもっているのはいいですけどね。

福田　大抵のことは取り繕っても相手にはわかりますよ。見るのは磨けば光る人かどうか?それと言葉遣いにユーモアがある人がいいと思いますね。

藤井　人事の基準ははっきりとわかりませんが、やはり基本的に明るい人の方がいいと思いますね。それと私の会社では、日本IBMという会社はなくなってしまっているんですよ。もちろん社長もいますし、会社はあるんですけどね・・・。どういうことかというとグローバリゼーションがどんどん進んでますから、IBMは世界中で分業していってるんですね。東京本社には色々な国の人が勤めていますから、世の中はどんどん変化しているんだという感覚とこの変化を楽しむ気持ちもいるかもしれませんね。世界中をまたにかけて仕事をしたいならやれますよ!いいかどうかは別として。

会社&仕事選びのコツとは?

入社した時が絶頂期で、それから徐々に衰退の道をたどる業種もあれば、今成長軌道にのりだしたばかりの業種もある。企業にも同じことはいえる。そうした意味では、会社選びはある種の賭けのような部分がなくもないかもしれない。それを見極めるのはプロの投資家やアナリストたちでも至難の技。ましてグローバル化がますます進む今日では、何があっても不思議ではなくなっているのかもしれない。

学生　会社でご自身がやりがいを感じられた時はどんな時ですか?

藤井　やりがいという意味ではないのですが、私は今の会社をとてもいい会社だと思っています。自分のペースやスタイルで仕事に取組めることができますし、キャリアを積んでいくこともやれてこれました。それは社風ですかね。

浅田氏

浅田氏は昭和59年の卒業、色々な
20社はまわったとか。関西電力に決め
内定がもらえたことは当然として、採用
が良かったという。「入社して最初に配
いわゆるお客様の窓口である営業所。
たりの手続きやら、料金の案内などとに
るということなんですが、今月の料金を
ややこしい苦情とかもあったりして、正
ころやと思ったこともありますわ・・・。その
も知らないのがITをやることになって、
にかくがむしゃらに夜遅くまで働きまし
今ではその経験が役に立ってますけど・

講師　就活本音トークⅡ

ツって?仕事って?～

色の就活座談会は、平成18（2006）年度経友会講座（産業経済論特講
氏（日本IBM 次長）、浅田利晴氏（関西電力 情報通信センター所長）の
後の体験や裏話をまじえて会社人生について伝授。学生は、就職先の選
えなどについて、率直な疑問を講師と本音で3時間近く語り合った「まるご
金）に経済学部棟で実施された。

大学祭風景

学生　営業の仕事って女性でもやれるんでしょうか?

福田　住宅の場合は、お客様が女性の方がほとんどですから、最近はむしろ女性の方が成績が上ることが多くなってきてますね。不動産の知識なんかは半年位で大体は修得できますから･･･。ただお客様との打合せがどうしても夜か休日になることだけはしかたありませんよ。

学生　皆さんの会社では、勤務時間や休日、残業、給与などはどうなっているんでしょうか?

浅田　事業所によっても違いはありますけど、本社は9時～18時で土日祝休ですね。残業はもちろん部署によっても変わりますけど、若い間は9時とか10時位までは残ることが多いですね。

福田　最初は住宅営業の店に配属されることが多いので、先ほども言いましたように火水が休みになります。もちろん夜間営業は多いですよ。その分営業手当はかなり多く支給されますし、契約に応じた額が加算されますから1年目でもふつう年収500万円位になるとおもいますよ。

藤井　IBMは給与体系が複雑なんです。退職金をもらうパターン、もらわずに毎月の給与で受取るパターン、役職とあまり給与が連動してなかったりもするので、説明しづらいですね。どちらにしてもある一定の数値目標があってそれをクリアしないと年俸は上がりません。極端に言えば、ですからいつどこで仕事をしようと本人次第みたいな感じです。

業種の会社を
たのはもちろん
担当者の印象
配属されたのは
引っ越しされ
とかく現場を知
待ってくれとか、
直なんちゅうと
の後文系の何
若い時分はと
たね。もちろん
･･･。」

藤井氏

藤井氏は昭和58年の卒業、第1志望の商社が当時の就職協定にシビアで内定がなかなか出してもらえなかったそうだ。それで製造業も訪問しておこうということで何社かまわったとか。その内の一つがIBM、こちらは早々の内定。しかも協定解禁日には東京のホテルに来るようにとの連絡があり、第1志望の商社に事情を話して交渉をしてみたが、役員面接後でないと内定は出せないといわれ、日本IBMに入社したという。「結局世の中自分の思うようにはいきませんよ。入った会社で頑張れば、結果はどっちが良かったのかは何とも言えませんから、就職は柔軟に考えた方がいいんじゃないのかな･･･。」

第11回経友会総会を開催

快晴に恵まれた昨年11月3日、恒例のホームカミングディにあわせて学術情報総合センター1階の文化交流室において総会が開催されました。

この総会では平成18年度事業報告と同会計決算、19年度事業計画と同会計予算（以上、前号掲載「常任幹事会報告記事」の通り）が承認されたほか、任期満了による役員改選が行われ、木村会長が退任されて後任の会長に木村会長から指名を受けた高田 雄司氏が満場一致で選出されました。そのほか、従来の優秀学生表彰助成に代わって新たに経友会賞規程の創設が議決されました。

またこの日、総会ゲストとして、第23回吉徳ひな祭俳句賞最優秀賞受賞の杉田 菜穂さん（平成15年経済学部卒 大学院経済学研究科後期博士課程在籍）が招かれ、彼女の俳句への取り組みと自身の作品の説明に満場の会員から大きな賞賛と激励の拍手が送られました。

第2部では、大学院研究科准教授 中村 英樹先生の「ゲーム理論から見た経済の諸問題」と題する記念講演を聴きました。難解な理論を分かりやすくお話いただいたのですが、久しぶりに聞く経済学講座に会員はみんな真剣な面持ちで聞き入っていました。

退任のごあいさつ

前会長 木村 進

大阪市立大学経済学部創設50周年記念事業を推進し、これを成功裡に終了させた後も、経友会を継続的に活動させ、さらに発展させるためにご尽力をいただいた建部初代会長の後を引き継ぎまして、2001年7月、はからずも経友会会長に選任されました。微力な私が2007年11月、高田現会長が選任されるまでの6年間余、経友会が継続的に活動することができましたことは、会員各位のご支援・ご協力によるものでして、退任に当たり厚く御礼申し上げたいと存じます。

経友会会長に選任されました当初は、一人でも多くの卒業生各位の経友会への加入のお願いや終身会員制度を提案し、総会で承認されました。また、常任幹事会の議を経て、総会をホームカミングディにあわせて開催することにし、今日、これが慣行になったものと思われます。その後も、55周年記念事業を実施したり、経済学部卒業生らを講師とする経友会講座を開設して、学生たちが先輩の知識や経験を学び、両者の交流が図られことになりました。そのほか、経済学部教員の出版への助成や優秀学生表彰の副賞の授与、経友会ニュースの刊行等、経友会事業が進展しましたが、これらも常任幹事会のご尽力と会員各位の温かいご支援があってのことと感謝しています。

経友会が今後も継続的に活動し、発展していくためには、さらに組織の強化や、60周年記念事業についても考えなければならないでしょう。会員各位のご理解とご協力をお願いしまして、退任のご挨拶と致します。

就任のご挨拶

新会長 高田 雄司

経友会会員の皆様にご挨拶申し上げます。この度、木村前経友会長より、継承しました高田 雄司（社院H9年卒）でございます。まだまだ未熟でございますが、経友会発展のため精一杯努力致す所存であることを先ず以って申し上げます。

経友会は、経済学部の発展を支援し、先生方との交流・同窓生相互の連携を継続的に深めて行くことを目的として、1997年7月設立されました。そして早やその誕生から10年余が経過しました。

思い起こして頂きますと、大阪市大経済学部は、大阪商科大学を母体として誕生してから、来年‘09年に60周年を迎えることとなります。この大きな節目の年を記念して、われわれ経友会としても、経済学部の先生方と連携して、60周年を祝い、伝統を有する経済学部のさらなる発展を展望する事業に取り組まねばならないと考えております。会員の皆様の創意を結集して、この1年この企画に邁進いたす所存です。

21世紀を迎え、私たちの社会と経済をめぐる環境は激しく変化し、グローバル化や情報化が進む中、世界経済なかんずく日本経済はかつてない混迷の時代を迎え、長期化する不況や高齢化など、たくさんの問題を抱えています。そういう状況の下、産業経済界でご活躍中の同窓生を講師に迎えて3年前から実施している経友会講座もグローバルなテーマを中心に据え、幸い大変好評を得ており、本年度もより新鮮さを加味し継続して行く所存です。経友会活動の一端を述べたものですが、これも皆様方のご支援の賜物と感謝している次第です。

今後も皆様方の提案をどしどし取り入れていく考えには変わりございません。

末筆となりますが、経友会が今後も継続的に活動し、発展して行くためには、経済学部・経済研究科卒業生各位のご支援とご協力が不可欠であります。卒業生各位には経友会の活動にご理解と絶大なご協力をお願い申し上げる次第です。

総会記念講演

ゲーム論を使っていざこざ解決

講師
中村　英樹准教授

1949（昭和24）年に、アメリカのノーベル賞学者ジョンナッシュ博士が普遍的に活用できる理論としてナッシュ均衡、いわゆる「ゲーム論」を展開した。この理論は、政治分野や経済・経営分野、軍事戦略など幅広い分野で相手の行動分析に広く用いられている。

経済分野では、企業間競争における価格決定行動やシェア分析などにおける販促戦略の効果測定、新商品投入による競合他社行動分析などに使われており、きわめて基本的な理論になっている。

中村先生は、夫婦の家事の役割分担の例や、囚人の尋問時の事例などを用いてわかりやすく説明された。

俳句とともに学ぶ若き院生

講師　本学経済学部研究科大学院生
杉田　菜穂さん

今年度の経友会総会で大学院生の杉田菜穂さんが講演しました。杉田さんはお母さんの影響で小学生の頃から俳句を学び、大学院生となった今も俳句の創作活動を続けています。大学院（博士課程）では玉井教授の指導を受け、少子化問題などの研究を続けています。

杉田さんは今までいくつもの賞を受けていますが、昨年は第23回吉徳ひな祭俳句賞で最優秀賞を受賞しました。

香（かおり）立つ　陽（ひ）の光あり　雛（ひいな）の間

講演では、小学生の頃から最近までの作品を紹介するとともに、学問を詠った先人たちの俳句も紹介し、学問と俳句を両立していきたいという気持ちを話されました。

凍星（いてぼし）や　いづれ師恩に　応えんと

新役員体制が発足

2001年7月、初代会長の建部氏の後を引き継がれて以来、6年余り役員の先頭に立って、常任幹事会を指導され、経済学部の発展支援と、教員との交流の進展のために尽力されてこられた木村　進会長が退任され、後任として指名された高田　雄司会長をトップとする新役員体制が総会で承認されました。経友会の創設時から本会事業の進展に真摯な努力を続けてこられた前会長はじめ旧役員の皆様に感謝する次第です。

新役員一覧　　**平成19年11月3日改選**

氏　名	卒業年	新役職	前役職	氏　名	卒業年	新役職	前役職	氏　名	卒業年	新役職	前役職
高田　雄司	H.9社院大	会　長	常任幹事	建部　好治	S.28	顧　問	顧　問	今川　明	S.32	顧　問	顧　問
南部　昌弘	S.37	副会長	事務局長	久我　一郎	S.28	顧　問	顧　問	久保　勇	S.32	顧　問	副会長
山幡　一雄	S.38	副会長	副会長	木村　進	S.30	顧　問	会　長	木村　甲辰	S.33	顧　問	副会長
福島　由堯	S.42	副会長	常任幹事	龍口　篤夫	S30	顧　問	副会長・監事	菅原　正博	S.34	顧　問	副会長
出原　康雄	S.38	事務局長									

経友会賞を創設　～在学生、卒業生、教員が対象～ 副賞金は最高20万円

この総会で、学術、産業技術、芸術、国際交流、スポーツ等ジャンルを問わず広く社会文化の発展に寄与する優れた業績、功績をあげ、大阪市立大学の名を国内または国外に知らしめた者（グループ・団体を含む。）1名または1団体・グループに対してその功績を称えて経友会賞を授与し、副賞金を進呈する制度の創設を決めました。

この賞は、本学経済学部または大学院経済学研究科の学生、および卒業生、教員を対象とします。また受賞者の選考は、経友会の委員と経済学部教員からなる選考委員会で行います。あなたのご存知の方で、受賞者にふさわしいと思われる候補者がありましたら、推薦くださるようお願いします。詳しくは事務局までお問い合わせください。

元大阪市長　経済学部の巨星　磯村名誉教授が逝く

55周年記念特別講演より

去る2007（平成19）年11月26日、経済学部の偉大な師であり、学者出身としては御堂筋を建設した関一市長以来となる第16代大阪市長も務められた磯村名誉教授が、肝臓がんのため76歳で逝去されました。

先生は、別表の通り、大阪市に生まれ大阪商科大学高等商業部から大阪市立大学経済学部、経済学研究科修士課程修了後、フルブライト留学生として米国の名門ジョンズホプキンス大学で学ばれ、フリードマンなどと議論をされるなど気鋭の学究としての才気の片鱗をうかがわせる逸話が残る。

本学に戻られてから博士課程に進まれ、29歳で助手、36歳で助教授、37歳には博士号学位取得著書である「物価変動の理論」を出版され、当時我が国におけるインフレによる諸問題への理論的基盤を示され、物価論の重要性を説かれた功績は大きいといえよう。

学者としては実学主義に徹せられ、大阪をこよなく愛する気持ちが町への様々な情熱へと変わっていかれ、その誠実な性格とあいまって故西尾市長に請われ大阪市助役、大阪市長へと進んでいかれたと推察されます。

磯村氏著書

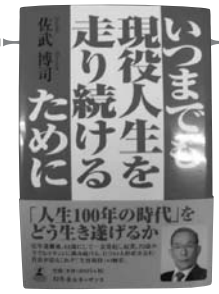
故磯村　隆文名誉教授（元大阪市長）ご略歴

1930（昭和5）年12月	大阪市生まれ
	市立生野工業高校
	北野第二中学校卒業
1951（昭和26）年	大阪商科大学高等商業部卒業
1954（昭和29）年	大阪市立大学経済学部卒業
1956（昭和31）年	大阪市立大学大学院経済学研究科修士課程修了
	フルブライト留学生として アメリカジョンズホプキンス大学大学院で研究
1959（昭和34）年	大阪市立大学大学院経済学研究科博士課程修了
	同年経済学部助手
1966（昭和41）年	経済学部助教授
1972（昭和47）年	経済学博士号学位取得（「物価変動の理論」）
1975（昭和50）年	経済学部教授
1982（昭和57）年	経済学部長
	文化交流センター所長
1990（平成2）年	退職
同年4月	大阪市助役就任
1995（平成7）年9月	同　退任
同年12月	大阪市長当選
2003（平成15）年12月	大阪市長任期満了退任

上場など専門キャリアの人材紹介会社を62歳で起業。

「いつまでも現役人生を走り続けるために」

株式会社サブスリーコンサルティング代表取締役 佐武　博司氏（S32卒）著



佐武　博司氏

著者の佐武氏は、1934（昭和9）年和歌山県田辺市生まれ。1957（昭和32）年本学経済学部卒業後、総合商社ニチメン株式会社（現双日）に入社、衣料部門輸出担当としてニューヨーク、ナイジェリア赴任などの経験も含め33年間勤められた。1990（平成2）年に子会社のニチメン衣料（現株式会社ニチメンインフィニティ）へ転籍、取締役業務部長兼株式上場準備事務局長として4年後に大証2部に上場をはたし、1996（平成8）年同社を退職された。一方同氏は、タイトルにあるように73歳の今なお現役のランナーであり、定年後に自らの体験を世に活かそうと起業した事業家でもある。マラソンとの出会いは、1973（昭和48）5月の新聞記事をみて、当時営業課長で接待も多くメタボ予備軍的体型であったことから、一念発起しジョギングを始めたことに端を発している。56歳で三田マスターズハーフマラソンを1時間46分で制覇。翌春篠山ABCマラソン42.195kmを4時間以内（サブフォー）で初完走、現在に至っている。「人生はマラソン、完走するには耐力が重要」という。定年を迎えるまでに自身のキャリアデザインを相談してみては・・・。

＜事務局へのお問い合わせは＞

事務局担当　出原　康雄（S.42卒）
FAX:072-238-9525　E-mail:keiyukai07@sakai.zaq.ne.jp

＜編集体制増強のお知らせ＞

経友会ニュースの編集方針および誌面構成の全面的刷新を第10号（2006年3月発行）から実施いたしました。具体的には、会員の皆様に可能な限り大学や経済学部の課題や実情、現役学生さんたちの素顔などをご紹介することで、母校に対する親近感をより深めていただくことを目的としてまいりました。

まだまだ不十分な点が多々あろうかと存じますので、今回編集体制の若返りと増強を図るため、新たに2名の方にご無理をお願いしご参画いただくことになりました。今後は、新たなメンバーを加えより充実した経友会ニュースを会員、現役学生の皆さんにお届けするよう努めてまいりますので、なお一層のご支援ご協力をお願いします。

齋藤敏宣（S51卒）留任、南部昌弘（S37卒）留任、出原康雄（S42卒）留任、
有田正文（S50卒）留任、前田邦彦（H12卒）留任、岩佐雅史（H13卒）新任、
登り山和希（特別委員・院生）新任

編　集　後　記

経友会講座も39回（3期）が無事終了し、経友会ニュースもなんとか14号の発行にたどりつけました。これもひとえに関係各位の皆様のお陰と感謝いたしております。（浪速のベンチャー男）

シャープが工場建設に着手。新日鉄堺の空き地にクレーンが林立しています。戦前、関西一の海岸リゾートであった堺の浜が、60年代に埋め立てられて、日本最大の臨海工業地帯となり、高度成長期は産業の構造転換によって衰退、今また新たな賑わいを取り戻そうとしています。おいら長年、堺に住んで産業の歴史的変遷というのをみてきたけど、長生きすりゃ勉強になるよね。（堺衆）

年末には上海へのゼミ旅行（3年生）に参加させてもらいました。
2008年度は韓国から3人の交換留学生が来るそうです。
外国との交流が活発になること、楽しみです。（周）